

茨城支部主催 7年度関東四支部合同懇談会（茨城・栃木・群馬・千葉）報告書

期日	2026年1月24日（土）～25日（日）
場所	大子温泉やみぞホテル 茨城県久慈郡大子町矢田 524-2
講演会	「インドヒマラヤ・カンヤツェⅡ峰（6270m）登頂レポート」 吉井 英生氏（茨城支部会員） 「常陸国ロングトレイルへの取り組み」 和田 幾久郎氏（茨城支部会員）
宿泊	大子温泉やみぞホテル
山行	Aコース（登山）生瀬富士登山～ジャンダルム滝覗き CT5時間 Bコース（観光）袋田の滝・大子おやき学校（おやき作り体験）

栃木支部11名、千葉支部6名、群馬支部3名、茨城支部6名、計26名が参加し、大子温泉やみぞホテルで四支部合同懇談会が行われました。水郡線利用で遠路遙々駆け付けられた方もおられました。

24日は午後1時50分より開会式が始まり、4支部活動の報告に続いて、講演会が行われ、最初に茨城支部会員のインドヒマラヤ・カンヤツェⅡ峰登頂レポートでした。同年代の方が初めて6000m峰に挑んだ話は、海外登山未経験の私でも挑戦の文字が浮かびました。続いて「常陸国ロングトレイルへの取り組み」について、同じく茨城支部会員より発表がありました。常陸国ロングトレイルは、茨城県北部6市町の里と山を歩いて、地元の誇らしいシンボルの里山文化と地域資源をつなぐ320kmのトレイルです。2019年に茨城県に採択され官民協働で進められ、地域に根差したトレイル整備・維持保全活動を展開し、現在85%開通しているそうです。明日の登山コースはその一部を歩きます。

午後5時に熱い講演会が終了し、6時30分の夕食＆懇談会に備え、名物のりんご風呂でリフレッシュ、大量のフレッシュりんごが浮かべられた温泉はとても贅沢でした。夕食には常陸牛の石焼きをはじめ地元の素材を使ったお料理と、差し入れられた各地の地酒を堪能しました。ほろ酔い気分のところで、ガマの油売り口上が茨城支部会員から実演披露され、拍手喝采でした。

寒冷な気象条件がそろうと見られる自然現象の紹介があり、翌朝日の出頃を目指し、ホテル前の久慈川に見に行きました。シガ（氷花）と言い、上流で凍った川の水が流氷となって流れ、太陽の光でキラキラ輝くそうです。地元のカメラを持った方が、こんなもんではないとの話でしたが、今朝はその片鱗を見ることができました。



朝食を食べ、山行班 16 名はホテルのバスで登山口まで送迎していただき、そこに常陸国ロングトレイルボランティアの方 2 名が案内役で加わり、18 名で 8 時に出発しました。沢沿いの山道を登り、60 分ほどで尾根に乗りロングトレイルと交わります。トレイルはギザギザな 21 峰につながり、どこまでも続く山並みと里の眺めが広がります。急斜面の岩稜を超えると標高 406 m の生瀬富士到着。ここから希望者は茨城ジャンダルムと名付けられたやせ尾根に挑みます。冷たく強く吹く風に阻まれてとても怖かったですが、360 度の景色は最高でした。山頂に戻り、次の立神山までは下り登りを 2 回繰り返します。この地方に残る伝説や、トレイル開拓の話を伺いながら進むと、次のポイント滝覗きへ。袋田の滝を見下ろすと、写真のような静止画で不思議な感覚に囚われる凍結した川面です。袋田の滝観光班も、8割ほど凍った見事な氷瀑を写真に収められたことでしょう。



滝覗きを後にし、次に生瀬滝上部の渡渉地点へ下ります。ここが生瀬滝の上部であり、さらに袋田の滝上部であるというから驚きですが、水量も少なく傾斜もない幅 40 m ほどの、一部凍っている川を渡渉します。自然の造形物の面白さに万歳です。

11 時 50 分ホテルのバスが迎えに来てくれ、ホテルで観光班と合流しました。昼食に奥久慈しゃもすき焼きをいただき、四支部懇談会は散会となりました。次回は今年の 11 月に群馬支部担当で開催が決定されています、とても楽しみです。



仲島 正子